

花火大会の市共催を申請

実行委 露店事故前の規模に向け

今夏に花火大会の開会の共催を申請した。催をめぐり福知山日ANA BI実行委員会（奥田友昭実行委員長）は7日、福知山市に大

て返答する。受理されれば2013年の露店爆発炎上事故以降、初めて市が主催側として関与することになる。

市内の若手経営者や福知山観光協会などをつくる実行委は、休止されていた花火大会を24年に復活させ、昨年も開催。市は後援の立場で関わってきたが、今回は事故前の規模の打ち上げ数を容認することなどから、より安全対策に関与するため、条件を整えば共催する方針を4月27日に示していた。

実行委の計画では、大会当日の河川敷の有料観覧席設置（5500人）、市内の中高生無料招待、混雑対策の露店の箇所分散、警備体制の充実などは前回から継続する。

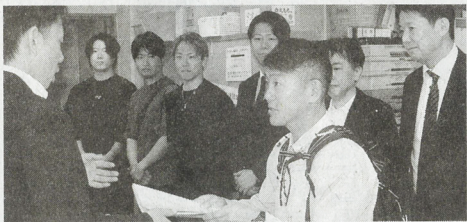
今回は福知山城再建40周年特別企画として、城公園内に弁当付き有料観覧の特設ステージを設置。1組限定の天守閣での観覧提供も予定している。また、

誰もが花火を楽しめるようにと、市役所庁舎内に身体障害者や要介護者を対象とした観覧席を設ける。

このほか、市民参加型企画として寄付を募り、「市民の花火」としてプログラムの最後に打ち上げる。市、観光協会、銀行振り込みで受け付け、広く参加を呼びかける計画。

今後は市と協定を締結し、運営マニュアルの作成などを協議していく。

市商業観光課に実施計画書と保険見積書などを提出した奥田実行委員長は「公民連携により近づき、ここからがスタート。多くの人が思い入れのある花火をきっかけに、もっと市と関わって市全体がよくなっていけば」と話していた。



共催を申請する
実行委メンバー